

宮城県北上町。海と川が出会う、人口4000人の河口の町にも、もうひとつのスーパーフードがある。(中略)何もなければの北上町の女性たち13人にアンケートを試みた。1年間自家生産している食材にはどんなものがありますか? いったん収穫をまき、いつ頃収穫しますか? さらにそれらの食材はどのように調理料理、加工保蔵をしていますか? このわずらわしい問いに全員がていねいに答えを寄せてくれた。その数なんと300余种。内訳は庭先の畑で育てる野菜や穀類が90種。里山から山菜などが40種。きのこ30種、果実と木の実が30種。海から魚介類と海藻が約100種。そして目の前を流れる北上川からウナギ、シジミなど淡水魚が20余种。天然記念物のイヌワシが舞う山々。リアスの海。その海と出会う大河北上川。ていねいに耕された畑。そして黄金色の稲穂実る田んぼ。そこは知られざる食材の宝庫であった。海、山、川、田、畑。食材を育む自然要素をこれだけでもっている風土はまれなのだが、なぜか人びとはこの町を何もない町と呼ぶ。おそらく(宮城県)宮崎町同様、この町にもコンビニもファミレスも商店街らしきものがないからだろう。(現代農業2002年11月増刊『スローフードな日本!——地産地消・食の地元学』農文協、2002年)



# Y

- ★あなたならキーワードYを何にする?
- ★あなたが住むまちや村で  
おもしろい素材はないですか?

●人物  
今森光彦  
内山節  
鈴木建夫  
曾根原久司  
結城登美雄  
若杉友子

●関連キーワード

【R=Respect & Inspire  
(先人知へのリスペクト×若い感性)】 p.133